

## 2 図画工作科

### 『造形遊び』の特性を生かした「自己コントロール力」「自己肯定感」の育成 - 第5学年 -

#### (1) 研究の視点

##### ア 第2年次の研究から

第2年次には、低学年における図画工作科の学習の特色、児童の発達特性を踏まえた指導上の工夫について、第1学年の「絵や立体で表す活動」「造形活動」の授業研究を通して検証した。その結果、図画工作科において鑑賞活動は、表現活動を支えるものであり、常に表現活動と一体のものとして扱うことが重要であり、具体的に年間の題材構成や指導計画の中に位置付けねばならないことが確認された。

この授業研究をとおして得られた知見を本研究テーマである「自己コントロール力」「自己肯定感」とのかかわりにおいてまとめると次のようになる。

##### (ア) 自己コントロールとのかかわり

- ・題材から自由に思いを膨らませたり、粘り強く自分らしい想像力を発揮させたいが、低学年の児童にとっては、具体的に描き出せる表現内容に高まるまで「思い」を膨らませることは容易ではない。
- ・自分の思い通りに表現できるまで試行錯誤をする時間を与えることにより、「思い」を具体的に表現できたという充実感や、もっと描き加えたいという欲求や「思い」を持ち続けさせることができる。
- ・他の児童の「思い」をしっかり聞いて理解することや、表現された作品のよい点を理解させたい。しかし、低学年段階の児童にとっては、自分の「思い」や表現との違いを尊重しながら他者理解を深めることは難しいことである。

##### (イ) 自己肯定感とのかかわり

- ・自分が題材から膨らませた「思い」について、その概要を簡単な文章にまとめたり、発表したりすることを通して自分で再確認し、自分の思いやよさに自信をもつことである。
- ・自分の思い通りに表現が進んでいること、努力によって進んだことを確認できたことで自信をもつことである。
- ・思いや表現作品の発表を通して、他の児童から感想やよい点について評価を受け、自分の活動について更に自信を深めるとともに、所属感や達成感を味わうことである。

#### イ 学習指導要領「改善の要点」を踏まえて

本年度の研究にあたっては、次に挙げる学習指導要領図画工作科「目標の改善の要点」を踏まえて研究の視点を設定した。

##### 図画工作科 目標の改善の要点

児童が、自らつくりだす喜びを味わえるよう、個性を生かした多様で創造的な活動を促すようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を育成することを一層重視する。

##### (ア) 内容の改善の要点から

##### 二学年まとめて示された内容を学校の実態に応じて具体化すること

- ・一人一人の児童によって、イメージのもち方、発想・構想のスタイル、製作のペースな

どが異なるものである。一人一人の表現活動の特性を大切にしていけることが、豊かな表現を生むことにつながる。

- ・児童の主体的な表現活動を実現するためには、児童の興味・関心の高い地域の自然や文化などの特性を生かす題材の設定が重要である。

#### **高学年においても造形遊びの学習活動を取り入れること**

- ・楽しく造形活動することの内容は、児童の主体性、創造性、冒険性、共同性などの「遊び」がもっている活動のよさを生かした表現活動を学習活動として構成したものである。

#### **(イ) 指導上の留意点から**

- ・題材の設定については、材料・用具や表現の主題などから、多様な発想で多彩な活動ができるように、表現内容を限定しすぎないよう題材に幅をもたせるとともに、児童が自分に適した表現方法などを選ぶことができるようにすること。
- ・高学年の造形遊びの指導は、材料の特徴から発想することや、環境を造形的に構成する内容などが考えられる。児童が、自分の生活する環境に積極的に働きかけて、美的な空間の表現を目指して、仲間と一緒に共同で活動できるようにするなど工夫をする。

#### **ウ 本年度の研究の視点**

本年度は、第2年次までの研究の成果を踏まえ、さらに研究内容を広げるために対象を第5学年とし、以下の視点で研究を進めた。

#### **(ア) 高学年児童の表現の実態から見た題材の選択の在り方**

中学年までは描いたり作ったりする活動に何も抵抗なく取り組んでいた児童も、高学年になると、知的な発達が進み周囲の視線を気にするようになり、自由な発想や人と異なる構想をもつことに抵抗感を示すようになる。

主体的、創造的に活動させるためには、低学年から積み重ねている造形遊びの経験を生かし、材料・環境・自然現象などから楽しい発想を広げる題材を与えることを重視したい。

#### **(イ) 高学年児童の表現の実態から見た学習指導の在り方**

高学年の児童は、一人一人の表現の特性や傾向が顕著になってくるとともに、周囲の様子や事柄の成り行きを考えながら行動するようになる。そのことから、授業全体の流れを踏まえ、周囲の状況を判断しつつ、他者の考えを受け止め、自分の考えを主張するなど、考えたり計画したりする『デザインの能力』を高める学習活動の在り方が必要になってくる。作りたいものを見つけ、用途などを考えて表し方を構想し、材料や用具などの見通しをもたせながら造形活動を進めていくことを重視したい。

#### **(ウ) 自己コントロールや自己肯定感をはぐくむために**

従来の図画工作科の授業においては、あらかじめ想定された「結果としての作品」のイメージにしばられ、美術への神話（本物のように描こうとする、本物のように作ろうとする）の影響が大きかった。

造形活動は、表現することの楽しさや可能性、有能さを生かすものであり、一人一人が主体性をもって活動できる学習活動である。自己コントロールとの関係では、製作過程での行き詰まりや出来映えへの不安を克服したり、指導上の工夫によって根気強く製作活動を続けさせたりしやすい学習活動である。自己肯定感との関係を考えると、多くの造形活動は、はじめに表現行為のイメージを描いて活動を開始しても、作りながらイメージがどんどん変わっていくものであり、共同製作しながら互いのイメージの変化を確かめ合ったり、友達の表現に関心を持ちながら自然にかかわり合ったりすることができる。造形活動

は、話し合い、認め合い、学び合う中で望ましい人間関係が構築され、それが自己肯定感をはぐくむことにつながると考える。

## エ 高学年の児童の造形活動の在り方

### (ア) 高学年児童の表現の実態

低学年の児童の場合、作ったり、描いたりすることに抵抗はなく、活動そのものを楽しむことができる。中学年においても、活気があって、表現したいというエネルギーがあふれ、思いがけない新鮮な表現活動を展開することができる。

しかし、高学年になると、知的な発達とともに原初的な自己中心性が徐々に薄れ、周囲の視線を気にするようになる。納得のいかない表現や、自信のない表現をすることに抵抗を示し、創造的な発想ができにくくなっていく。また、写実的なものへの憧れがありながら、写実的な技術が伴わないことへの苛立ちも現れてくる。

一方、細やかな表現に興味を示したり、自分なりのアイデアや表現の工夫にこだわりをもつなど個性化の動きも見られるようになる。また、自分の作品だけでなく友達の作品に関心をもつとともに、自身の表現を第三者的に振り返ることができるようになる。

### (イ) 題材選択の配慮事項

それまでは粘土や紙など、加工しやすいが、できあがった作品も壊れやすいという題材で満足していた子どもたちも、実用性とか耐久性にこだわりを示すようになってくる。そこで、簡単には加工できない、金属、プラスチック、ポリエステルなどを素材として、用具や道具を工夫して製作させることによって、「作った」という実感を与えることが必要となる。

図画工作科の授業時数の縮減によって、一つ一つの題材に多くの時間をかけることができにくくなっているが、絵と工作を組み合わせるなど内容の関連を考えて、子どもの表現能力が関連的に働くような題材を考える必要がある。

### (ウ) 一人一人のよさを生かす学習指導

表現の個性化が進んでくる高学年児童に対しては、製作手順や方法を一方的に与えるだけでは、関心・意欲を高めることは難しい。

多くの素材の中から自分のイメージに合うものを選んだり、作業の見通しをたてて必要な道具や用具を選ぶなど、自己選択の場面を多く設定することにより、新たな発想や表現を試したり、一人一人の力を十分に発揮する活動が展開できる。

高学年のグループで製作する「造形遊び」においては、最初の「構想を練る」時間を大切にし、友達とアイデアやおもしろさを共有したり、相互に交流する中で、自己表現能力が発揮できる。

また、始めの構想を大切にしながらも、活動を進めながら新しいアイデア、新たな発想を交流し、考えながら進み、議論しあって試行錯誤する過程を通して、様々な「表し方」や「見方」に触れ、創造的に表現する態度を育てていきたい。



## (2) 実践的研究の概要

### 【実践事例 1】

題材名「ワクワク未来は夢の木いっぱい」

- 22世紀をのぞいてみたら -

第5学年

#### ア 題材設定の理由

高学年における造形遊びは、学習指導要領では次のようにまとめられている。

##### 内容は

児童が材料や場所、環境に働きかけ、それらの特徴やその時、その場の様子から発想し、楽しさや美しさなどを考え、体全体の感覚を働かせて、造形的に構成するなどの楽しい造形活動をする事。

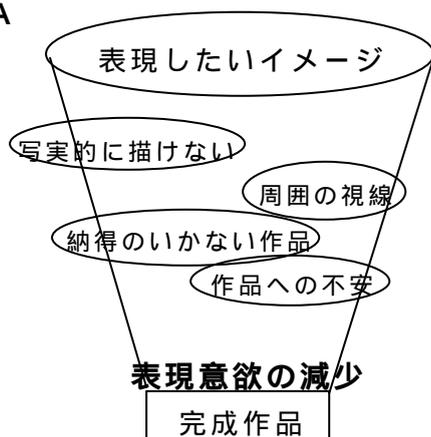
##### ねらいは

新しいものをつくりだすことや楽しい表現を試みることをし、一人一人が持つ力を総合的に働かせ、創造表現の能力やデザインの能力などを高めること。

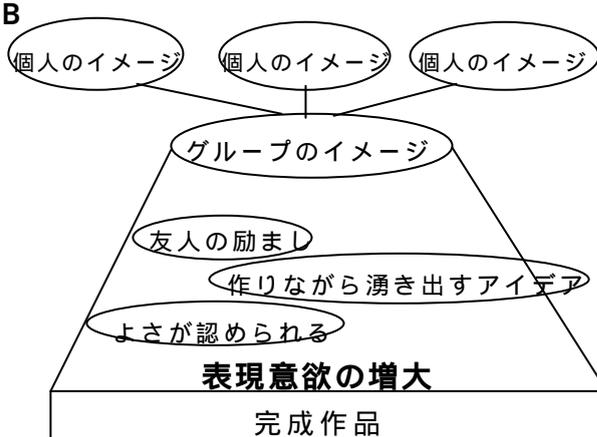
これらのことを踏まえながら、児童が自由に想像力を働かせ、新しい発想を目指して活動しやすい内容を考えた結果、「未来」「木」を題材とすることにした。22世紀の「未来」は、遙かに遠く、宇宙に、海底に、湖に、思いもよらぬ不思議な植物が生息しているのではないかと児童の想像力を刺激する。また、「木」は、毎日目にしているものの、実際には一本一本が異なり、空想しやすい題材であると考えた。

従来 of 写生の指導などでは、導入時点で児童の作品に対するイメージが固定的になり、「本物のように描こう」「写真のように」といった意識が強くなる傾向があった。しかし実際には、表現の不十分さから、始めにあったイメージがどんどんしぼんでいって、絵を描くことへの不安感が増大していく児童も見られたのではないだろうか。(図A)

図A



図B



そこで、今回の学習においては、始めに一人一人の木のアイデアをもちより、グループでの話し合いによってイメージを膨らませ、グループで共同製作活動を行う中で、他の友達とアイデアやおもしろさを共有したり、影響しあったりして表現意欲が高まるよう工夫した。

また、材料については、多種多様な素材を準備し、それぞれの材料のよさを考えながら自分のイメージにあった選択が行われるよう配慮した。材料選び、表現方法やそのための用具選びを自由に行わせることを通して、表し方を自分なりに工夫することのおもしろさやよさを味わわせたい。

## イ 題材目標

(ア) 未来のオリジナルの木に思いを込め、自ら作り出すことや、美しさを感じ取ることなど、造形表現活動を積極的に楽しみ、その喜びを味わおうとする。

(造形への関心・意欲・態度)

(イ) 自分たちがイメージした木を、想像力を働かせて考え、自分たちらしい表現の構想をしたり、デザインの能力を働かせて、作りたいものの意図を強調したり、出来上がりの美しさを考えたりするなど、豊かな構想をする。

(発想や構想の能力)

(ウ) いろいろな素材を、表現したい意図に合わせて選択したり、創造的な技能を働かせて工夫したり、造形感覚を生かして表し方を工夫する。

(創造的な技能)

(エ) 自分の表現や他のグループの表現に関心をもち、親しんで、その美しさを感じたり、表し方のよさを感じ取ったり、味わったりする。

(鑑賞の能力)

## ウ 題材指導計画 (P.28 ~ 29 参照)

### エ 指導上の工夫と活動の概要

指導上重視した点を項目として、活動の概要を以下にまとめた。

#### 児童の「かかわり合い」の重視

よりダイナミックな作品にしたいという思いから、4人ずつのグループで一本の木を製作した。製作場所を別々にせず、一つの部屋にニョキニョキと未来の木が並ぶようにして、製作中も互いの作品を意識しながら活動できるようにした。

事前に「造形遊び」の趣旨を説明し、まず、個人で「未来の夢の木」を考えさせた。次いで、グループで互いのアイデアを説明、交流する中で、より発想が広がり、創造性豊かなものになっていった。途中、作品が崩れたり、思うように進まなかったり、意見の食い違いが起こることもあったが、そのたびに、指導者が話し合いの中に入り、互いの意見を調整したり、よりよい案を練ったり、グループ内で互いに励まし合って活動できるように支援した。その結果、みんなの意見を出し合い、イメージをさらに膨らませて活動を楽しむことができた。

相互交流の機能を生かすために、製作途中に、互いの作品を鑑賞し合う相互評価の時間を設定した。他のグループの人にほめてもらったり、努力したところを認めてもらうことにより、作品作りの意欲が



高まった。また、他のグループのアイデアをきっかけにして、新たな発想で活動を始めるグループも見られた。

### 目標を設定し、見通しをもって行う学習活動

グループで個人のイメージを交流し、互いのイメージを組み合わせたたり、発展させたりして「未来の木」の設計図を作成させた。

事前に準備したペットボトル、空き缶、ラップの芯、菓子の入れ物などから、使いたいものを選び、他にどのような材料が必要か考えさせた。

特に、「未来の木」という大きなものを製作するため中心となる素材にしっかりしたものを選ぼうとしたグループが多かった。学校にあるもので、玉入れの籠、玉を保存する容器などを利用したり、ペットボトルをつないだ「未来の木の幹」を支えるために、水を入れたペットボトルを周りに取り付ける工夫も見られた。(上写真)



必要な材料の見通しとともに、それを接着する方法、組み合わせるための用具、穴をあけたりするための道具などを、事前に考えさせることによって、作業の流れを見通すとともに、作業分担を考える際、互いの得手不得手を考え、協力し合えるように計画を立てることができた。

### 多くの選択肢から自己選択する場の設定

早い時期から学級全体に呼びかけた結果、材料となる空き缶などを豊富に集めることができた。集めた材料は、教室の後ろに分類して置き、自由に使用できるようにした。

毎日それらを見ることによって材料を生かすためのイメージが広がり、多様な素材から自分たちのイメージにより近いものを選ぶことができ、豊富な材料を見て失敗してもよいという安心したためか、試行錯誤を繰り返す姿が多く見られた。

多くの選択肢の中から、自己選択することによって、製作活動が豊かになり、児童の表現への意欲が高まったと考える。

### 「振り返り」の評価活動の重視

二時間単位の製作活動が終わるたびに、グループごとにその日の成果を発表したり、振り返りカードに書くなどして、自分たちの活動を見つめ直す機会を設けた。グループによっては、互いの意見の相違から行き詰まる場合もあり、教師が適切に各グループの活動を把握するために有効であった。

高学年の児童には、その時間の自己を振り返ることによって、次の時間の自分の態度や姿勢を修正しようとする姿が見られる。自分の行動や言動を振り返ることは、グループの共同意識を高めることにつながった。また、以後のグループの活動の見通しを確認することで、次時の活動をスムーズに始めることができた。

### 学び方を身に付けることを重視した学習活動

ともすれば、「造形遊び」は、「楽しかった」というだけで何を学んだのか分からない

実践になってしまうという結果に陥りやすい。

小学校6年間を通して造形活動に取り組むからには、それぞれの学年で身に付けたり、経験させたりしなければならない図画工作科における基礎的・基本的な内容があり、それらを学習内容に取り入れ、指導することが重要である。

この題材では、用具の使い方、素材の生かし方、様々な接着の仕方などが、ぜひ身に付けさせたい「創造的な技能」であり、すべての児童が多様な作業にかかわるよう教師の意図的な作業分担に対する指導が必要となる。

それぞれの学年で、基礎的な技能を確実に身に付けることによって、自分の思いと活動がつながり、より製作への意欲が高まり、作品への満足度が増加すると考える。

## オ 児童の変容

・授業後の「振り返りカード」を見ると、「大きな作品を作って楽しかった」という感想が一番多かった。やはり天井まで届くダイナミックを製作した満足感が見られた。

・感想の中に他のグループの作品に対する思いが書かれており、自分ばかりではなく、学級全体に意識が広がった様子が見える。

・細やかな作業を伴う製作では、女子の方が興味を示し意欲をもって活動するが、空き缶や針金といった扱いづらい素材や用具だったためか、男子の意欲的な様子が多く見られ、男女とも「またやってみよう」という気持ちを持っている。

～ 22世紀をのぞいてみたら ～  
ワクワク未来は夢の木いっぱい  
(名前: )

- 1 みんなでオリジナルの木を作っていて、楽しかったことはありますか。それは、どんなことですか。  
全部楽しかったけど、特につつにスプレーをかけたこと
- 2 オリジナルの木をみんなで作っていて、困ったことや悩んだことはありますか。それは、どんなことですか。  
土色の部分で、かんが足りなくなったり、かんど、かんがくつつかなかったです
- 3 みんなでオリジナルの木を完成させて、どんなことを思いましたか。  
何時間もとてやっていたし、苦労はたかかったと、思ったり完成してとてもうれしかった
- 4 全体をとおして、今回の造形あそび「ワクワク未来は夢の木いっぱい」はどうでしたか。  
初めて大きな木を作って楽しかったし、もうたぶんできないことだと思うかな、できてよかった
- 5 次は、どんな造形あそびがしたいですか。  
外で何か大きな物(自分達で考えた)を作りたい

## 【実践事例2】

題材名「かくれ山のぼうけん」

- お話の絵 -

第5学年

「表したいことを絵や立体に表現したり、工作に表したりする」の内容では、以下の学習指導要領の文言からも分かるように、「造形遊び」以上に「経験させること」が重要である。

内容 A表現(2)イ

表したことに合わせて、前学年までに経験した材料や用具、自分が選んだ材料、糸のこぎりなどの特徴を生かして使い、表現に適した方法などを組み合わせながら 絵や立体に表現したり、工作に表したりすること。

## ア 題材について

作品全体をとおして読み聞かせをし、自分の印象に残った場面や心を動かされた場面を描かせる。できるだけ既成概念にとらわれないようにし、様々な想像をもとに自分だけの物語の世界を描いていくことの楽しさに触れさせる。

また、物語の世界を絵に表すことをとおして、形と色の響き合いから生まれる美しさを十分感じ取らせたい。そのためには、筆に含ませる水の量を考えさせ、混色や重色を十分

体験させることが大切である。

高学年では、絵を描く機会が少なくなっているため、「遠近感の技法」「線描のポイント」など、一人一人のイメージを描き出すために必要な表現について個別の指導が必要である。

### イ 題材の目標

- (ア) 物語を楽しみながら、心を動かされた場面を構想することを楽しもうとする。  
(造形への関心・意欲・態度)
- (イ) 自分の思いを大切にし、自分らしい表現をしようとする。(発想や構想の能力)
- (ウ) 中心となることをはっきりさせ構成を工夫する。(発想や構想の能力)
- (エ) 最後までていねいに、線描・彩色したりする。(創造的な技能)
- (オ) 友達の作品のよさに気づき自分の作品に生かそうとする。(鑑賞の能力)

### ウ 学習内容と教師の役割

次	学 習 内 容	教 師 の 役 割
第1次	<p>【お話の題名から物語を想像する】</p> <p>かくれ山は <u>どんなところだろう</u>  <u>どんなものがあるのかな</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童のイメージを広げるための資料の提示する。</li> <li>・ 全体をイメージさせ、一人一人の思いを大切にしながら、イメージに合う資料を見てスケッチさせる。</li> </ul>
第2次	<p>【線描する】</p> <p><u>スケッチや資料をもとに鉛筆で線描する</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵の中に「見ている自分」「お話に登場する自分」を入れさせる。</li> <li>・ 視点を意識させ、遠近感、重なりに対する意識を高めさせる。</li> <li>・ 一人一人の状況に応じて個別指導する。</li> </ul>
第3次	<p>【彩色する】</p> <p><u>絵の具を使って彩色しよう</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イメージにあった色を作るために、ためし紙で色を確かめる。</li> <li>・ 水の量と絵の具の量による色彩の変化を意識させる。</li> <li>・ 薄い色から塗るよう指示する。</li> </ul>

第 4 次	<p>〔鑑賞する〕</p> <p>友達の作品を見てよいところを出し合う</p>	<p>・一つ一つの技法のうまさだけでなく、全体の色彩、全体の雰囲気など様々な見る視点を与える。</p>
-------------	---	---

## エ 授業を振り返って

子どもたちにとって、「自由に描きなさい」とか「自分でイメージして」と言われても、イメージが膨らまず、すぐに描くことは難しい。

そこで、イメージを膨らませる基になる、「部分の資料」を提示し、全体のイメージを考えやすくしてみた。一度イメージが具体化すると、作品に集中し、意欲的に取り組むことができる。

第4次の最後の鑑賞会に先立って、指導の途中で何度か鑑賞会を設定した。友達の作品のよさに気付くことにより、「自分もやってみたい」「どうやって描いたらいいのだろう」「先生に聞いてみよう」という気持ちが出てくる。子どもなりの考えを無視した技術指導は、ときに「・・・でなければならない」という絵に対する固定観念を与え、自己表現の妨げになる場合があるので注意しなければならない。

鑑賞会の中では、その後の造形活動の基礎・基本となる部分を明らかにすることをねらいとして、多様な経験にふれさせ、自らの表現活動をとおして、いろいろな自由な表現方法があることを知らせることが大切である。そのためには、友達の作品の鑑賞指導、展覧会などに入選するような優れた作品の鑑賞、美術作品の鑑賞などを、意図的に組み合わせる指導することが大切である。



### (3) 研究のまとめ

以上二つの実践事例を紹介したが、ここでは造形表現活動における指導上の工夫について、本研究の主題と関連させながらまとめてみたい。

#### ア 成果と課題

##### 自己コントロール力について

##### **題材（素材）の選定**

従来までの絵画指導、絵画の題材においては、画用紙に描くという制約から表現の順序性が強く働き、一度絵の具を使って描き始めてしまうと後戻りができないことが多く見られた。そのことが、表現力に自信のない高学年の児童にとっての抵抗感となり、時には途中で投げ出してしまう児童も見られた。

造形遊びの題材では、多くの場合行きつ戻りつしながら試行錯誤を繰り返すことができる。よって、児童は「失敗したらどうしよう」という不安から解放され、自分らしい表現を追究できることが多い。

また、紙や段ボールと違って、金属やプラスチックを材料とした場合、堅牢な作品となり、スケールの大きな作品ができる。このダイナミックな製作活動は、子どもの製作欲求と一致し、製作意欲を持続することができる。

##### **かかわり合いの重視**

他者と「かかわり合う」ということは、自分の思いや意図を周囲との関係を考えながら発言したり、自分の気持ちに「折り合いをつける」という側面を含んでいると考えられる。自分の意図を一方的に主張し合う人間関係から、自分が納得いくように周囲との関係で話をしたり、友達の表現のしかたに共感したり、友達の表現を見て自分の表現を振り返ったりすることによって、自己をコントロールする力が育ってくると考える。

とくに、製作途中に鑑賞活動を設定することについては、他の作品のよさを取り入れようと意欲的に鑑賞活動に取り組むことにつながる。そして、自分たちの作品に取り入れるために、互いのアイデアがぶつかり合ったとき、子どもたちは自分自身を見つめ、どのように対処するかを学ぶこととなる。

また、目標を自由に設定できるという、図画工作科という教科の特性を生かして、積極的にかかわり合いの場を設定することで、他教科におけるグループ学習の「かかわり合いの場」に波及させていくことも考えられる。

##### **自己選択の場の設定**

従来の絵画、工作の指導においては、全員に同じ素材を与えられ、一定の目標に向かって製作活動を進めるパターンでの授業が展開される様子が見られた。

一人一人の表現方法の個性化が進んでいる高学年の時期は、単に知識の量を増やしたり、正確に描くための技能の習得を目的とする繰り返しの授業をしても、他の表現活動で「生きて働く力」にはなりづらい面がある。

画用紙を例にとると、数種類の大きさの紙を用意したり、数色の紙を用意することによって、自分らしさを追究しようとする意欲が高まり、最後まであきらめずに製作に励むと考える。

さらに、写真を貼ったり、布を貼って半立体にする手法を認めることにより、「絵は平面である」という概念から解き放され、さらに表現方法の幅が広がり、併せて自己選択の場面が設定できるであろう。

## 自己肯定感について

### 共同製作の見通しと分担

グループで一つのものを製作する場合、当初の「構想を練る」段階で一人一人の思いを製作過程に十分に反映させることが重要である。また、構想図を作成した後の作業分担においては、作業の見通しをもってそれぞれの児童のよさが発揮できるようになっているかを確認しなければならない。

他の教科におけるグループ学習においても、自分たちで分担させると、隅の方ばかり描いている子、横で手伝いばかりしている子などができてしまい、その子たちの能力の伸長が図られていくのか疑問に感じる場合がある。造形遊びにおいても、針金など接着作業に携わっていない児童がいたり、他の児童の分まで手を出してしまう児童がいたりする場面が見られた。

年間を通して、一人一人が基礎的・基本的な技能や知識を経験させるための方途について実践的に研究を重ねていくことが今後の課題である。

### 完成作品をみんなで温める時間

造形活動の作品は、紙などと比べて丈夫であるが、大きな作品が多く、野外に設置したりするため、一定期間が過ぎると雨風に打たれて壊れたり、作品のよさが損なわれる場合がある。今回の造形遊びの指導では、完成後みんなで作品を絵に表し、周囲に未来の風景を全員で描き加えた。このことをとおして、製作過程を振り返り、互いのよさを再確認するとともに、それぞれの絵を教室の後ろに学年の終わりまで残すことにした。そして、空き缶等の作品は、全校の児童に紹介した後、分別して廃棄することとした。

このように、一人一人のよさを互いに温め、作品を大切に扱おうとする姿勢は、自分の携わった表現の印象とともに、児童の心に深く残るであろう。

### 安心して自己表現できる環境を

高学年の児童の多くは、周囲を気にして「上手に描けるだろうか」「失敗しないかなあ」といった不安をもって製作活動を行っている。

とくに近年は、低学年時から、おどおどした表情で周囲を気にし、周囲の友人との人間関係がうまく結べない児童も見られる。それらの児童は、指示された作業に対しては安心して活動できるが、自分で考えて活動するときは、下を向いて動かなくなってしまうケースもある。すべての児童が安心して自己表現できる環境を整えることは理想ではあるが、一人一人の心の内を共感的に捉え段階的に自信を付けさせようという、教師の意識が大切である。

このことから考えると、高学年における造形活動は、一人一人が自分のよさを感じ取るのにふさわしい題材であると考えられる。

#### 自己表現に至る道筋（試案）

安定感	自分の位置付けを自分で感じ取れる
存在感	自分の位置づけを周囲が感じ取れる
肯定感	自分のよさを感じ取れる
効力感	集団の活動で役に立っている実感
有能感	自分のよさを認識する
成長感	活動をとおして成長できる感覚をもつ
自己表現できる環境	

## イ 授業改善への提言

### (ア) 「造形遊び」の内容項目の構成と題材選択

各校においては、地域の様子や学校の特徴を生かして、自校独自の題材の開発がなされているであろうが、その題材をどの学年で実施するかがひとつの課題となっている。

小学校学習指導要領においては、造形活動の内容項目が以下のようにまとめられている。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
材料をもとにして、	材料や場所をもとにして、	材料や場所などの特徴をもとに工夫して、
楽しい造形活動をするようにする		

学年が進むにつれ配慮すべき文言が増えており、「場所をもとに」「特徴をもとに工夫して」という文言の吟味をしなければならない。その上で、児童の発達段階や、指導の系統性を考え、その学校独自の造形活動の年間計画を立てることが重要である。

その際、単なる楽しい活動に終わることのないよう、その活動をとおして身につけるべき知識、経験させるべき基礎的・基本的な技能についてまとめておきたい。身に付けるべき「創造的な技能」を系統的に踏まえることにより、児童の自分ができる製作活動の幅が広がり、新たな技能に挑戦してみようという気持ちが生まれるであろう。

新しいことに挑戦し、それを一つ一つ乗り越えることが、自己肯定感をはぐくむことにつながると考える。

### (イ) 「見通しをもつ」「見通しの変更」「新たな見通し」へ

今年度の研究においては昨年度の研究を踏襲し、「鑑賞活動」の在り方について研究を深めた。

本年度の研究から、「製作途中での鑑賞活動の重要性」が明らかになった。

児童は日常的に、それまでに培った知識や技能を基に「概念」をつくり上げ、経験をとおして、より確かなものに再構成していると考えられる。そのきっかけとなるのは、周囲の友人から自分のかかわり方や行動を評価されたり、自分の製作活動の結果に内心納得がいかないときである。児童の多くは、そのようなときに有能さを発揮し、自分の概念を見直して「概念」の再構築をしようとする。

この概念を再構築する過程で、児童は自らを自己評価し、自己をコントロールする力を身に付けていくと考えられる。よって、題材指導計画を作成する際、製作途中での「見通しの変更のための話し合い」を意図的に組み入れることが効果的になる。

個人で取り組む絵画製作の場合においても、見通しの変更を促す適切な助言が重要になる。例えば、納得のいかない部分に紙を貼って半立体にする、根気の続きそうにない児童の場合周囲を切り取り画面を小さくする、部分的に雑誌の写真などを貼って技能の不十分さを補うなど、思い切った発想の転換を提案することにより、児童が新たな見通しをもち意欲的に製作に取り組むことができる場合がある。

また、教師の助言にとどまらず、友達どうし鑑賞しあったり、教師が発想の転換に役立ちそうな友達の活動を紹介したりして、自ら気付かせるように仕向けることは、さらに有効である。

ウ 題材指導計画「ワクワク未来は夢の木いっぱい」(全9時間)

- 22世紀をのぞいてみたら -

自己肯定感をはぐくむ視点を、自己コントロール力をはぐくむ視点を で表記

時	指導過程・指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価	自己肯定感をはぐくむ視点 自己コントロール力をはぐくむ視点
2	<b>つかむ(課題把握)</b> ・22世紀の未来の木を想像豊かに、みんなで考えさせる。  <b>個人で構想を描く</b>  <b>グループで構想を練る</b>  <b>構想を交流する</b>  <b>構想を具体化する</b>	・自分のイメージを絵に描いてみたり、友達と話し合ったりして、グループでどんな木を作るか相談し、構想を練る。	・事前に造形遊びをすることを知らせ、造形遊びに使う身近な素材を、いろいろな種類集めさせる。  ・一人一人に自分の思い描く未来の木を考えさせ、それを持ちよりグループで話し合わせる。	・造形遊びをすることを知り、意欲的に材料集めができたか。 (関心・意欲・態度) ・自分の想像したことを進んで話し合いの中に出せたか。 (発想や構想の能力)	自分の発想が盛り込まれた学習の計画を立てることで創作への意欲が高まり、自己有能感が感じ取れる。  発想の苦手な子は、友達の発想に触れながら自分の発想を膨らませることができる。
		・各グループで考えたオリジナルの木を発表し合う。	・各グループのオリジナルの木の発表の際、質問したり、他の児童の意見を引き出しりして、それぞれのグループの発想がいろいろな方向に広がるようにする。	・自分たちのオリジナルの木の構想がまとめられたか。 (発想や構想の能力)	一人一人の発想を大切にし、それぞれの思いを共感的に受け止めることにより、自分の発想のよさに気付かせる。
		・各グループのアイデアスケッチをさらに膨らませる。	・多様な表現となるよう、材料や用具についても工夫させる。	・空想の世界を発想することを楽しみ、自分らしいものを構想することができたか。 (発想や構想の能力)	自分の考え主張することと、友達の考え受け入れることのバランスを考えることにより、学び合う意識を高める。
6	<b>もとめる(課題追究)</b> <b>[製作1]</b> ・各グループで思い描いたオリジナルの木を表現材料、表現方法を選択しながら、表し方を工夫して協力して製作させる。  <b>[鑑賞1]</b> ・製作途中の作品を鑑賞しあう、学びの場を設定する。	・グループでの話し合いをもとに、素材・道具・接着方法を選択する。  ・グループ全員が活動できるよう配慮しながら製作する。	・児童の発想を生かせるよう、素材・道具・用具などを、それぞれのグループに対応できるように準備する。  ・安全面の配慮を十分行う。	・グループで話し合ったことをもとに、想像力を働かせて、材料や表現方法を工夫しながら表現することができているか。 (創造的な技能)	自分たちで素材を選ぶことを通して、自分たちのオリジナルの作品であるという意識を高める。  自分たちで道具や用具を選ぶことを通して、製作活動の見通しをもたせる。  グループで分担して作業することにより、一人一人のよさを発揮する。
		・各グループの作品の、よさや美しさ、表現方法のおもしろさなどを見つけ合い、指摘したりアドバイスしたりする。	・よさを認め合い、表現に自信を持たせるとともに、他のグループの表現方法のよさを参考にして、自分たちの作品のイメージを広げさせる。	・自分の思いと表現の現状について理解し、表現の意欲を高められたか。 (鑑賞の能力)	友達からのアドバイスを聞き、自分の表現のよさに気付く。

	<p><b>【製作2】</b> ・鑑賞しあったことをもとに、さらに、自分たちらしい表現になるよう、工夫を重ねさせる。</p> <p>・できあがった作品を未来のどんな場所においてみたいかを絵に表現させる。</p>	<p>・活動を進めながら思いついた新しい工夫や、別のグループのアイデアを取り入れながら、さらに工夫するところを話し合い製作を続ける。</p> <p>・題材のテーマを思いだし、22世紀の世界を想像豊かに思い浮かべ、各グループで話し合いながら、木の生えている様子を、絵に表す。</p>	<p>・つくり、つくりかえ、自分が納得のいくものを作ろうとする過程を大切にいく。</p> <p>・机間指導では、作品に共鳴し、よさを認め、他に紹介するなどして励ます。</p> <p>・つまずきが見られる場合には、対話を通して原因を探り、意欲を持続させるようにする。</p> <p>・始めに考えた構想が、みんなの協力によって、広がり深まったことを確かめ合う。</p>	<p>・表現活動進めながら、自分の思いを、確かめたり、新たに深めたり、さらに広げたりすることができる。</p> <p>(発想や構想の能力)</p> <p>・発見、気づき、工夫など、自分らしい表現の方法や技法を、創造できたか。</p> <p>(創造的な技能)</p> <p>・未来の様子を空想豊かに思い描き、進んで話し合いに参加できたか。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p>	<p>自分の表現のよさを追究し、粘り強く試行錯誤する。</p> <p>グループで話し合う際、お互いの意見を尊重しようとする。</p> <p>テーマを自分たちの力で解決したことの充実感を味わう。</p>
1	<p><b>深める(発展・深化)</b> <b>【鑑賞2】</b> ・各グループの作品と絵を発表させ、意見や感想を交流させる。</p> <p><b>【まとめ】</b> ・アドバイザーの先生の講評を聞かせる。</p> <p>・楽しかった活動を個々に振り返る。</p>	<p>・未来の地においた自分たちの作品と絵を紹介しながら、工夫したところ、表したかったこと、想像した未来の世界などについて互いに発表しあい、意見や感想を交流する。</p> <p>・地域の絵に堪能な方を招き、それぞれの作品についてお話を聞く。</p> <p>・表現活動の楽しさを思い起こしながら、振り返りカードに記入する。</p>	<p>・意見や感想を交流する中で、作品のよさや美しさを、一人一人が自らの感覚や感性を働かせて、感じ取ったり、味わったりするよう指導する。</p> <p>・グループごとの作品を取り上げながら、一人一人の活動を取り上げ、振り返り、確かめるよう助言する。</p> <p>・アドバイスを受ける中で、自分たちの活動を振り返り、表現活動の楽しさを味わうとともに、新たな表現への意欲を喚起させる。</p>	<p>・他のグループの作品のよさや美しさを、感じ取ったり、味わったりできたか。</p> <p>(鑑賞の能力)</p> <p>・自分たちの活動を振り返る中で、新たな表現活動への意欲を持てたか。</p> <p>(鑑賞の能力)</p>	<p>友達からの感想を聞き、自分が工夫したり、努力したりしたことについて再確認する。</p> <p>グループの活動の中で、自分の果たした役割を確認し、集団の中における自分の位置づけを確かめる機会とする。</p> <p>自分を見つめ直し、次の同じような機会に、よりよく周囲に対応する機会をどうすればよいか、考える機会とする。</p>

### 3 生活単元学習（障害児教育）

#### 「生活単元学習」における自己コントロール力、自己肯定感の育成 - 小学校障害児学級 -

##### (1) 研究の視点

###### ア 研究の経過

障害児教育については、研究の第2年次から「障害児学級における生活単元学習」の授業実践を通して研究を進めてきた。

第2年次の研究では、単元「さき織り遊びをしよう」の研究授業を行い、授業改善の在り方を検討していく中で、障害のある児童に対する自己コントロール力や自己肯定感を育む方策について考察し、その成果とをまとめた。

授業改善の視点としては、「児童の興味・関心・発達水準にあった取組」「児童が主体的に活動できる取組」「個に応じた指導を授業の中で展開すること」を大切にしてきた。

自然のものを教材にして、自ら興味・関心のある「物を作る体験」としての生活単元学習の中で、よりよいものを作ろうと児童が自ら考え、材料を自分で選択し工夫して作品を作る姿や、友だちと助け合ったり、教え合ったりする姿が見られるようになった。また、作品鑑賞の際には、互いの作品のよさに気付くことができ、全校からの賞賛により自信もつてきた。

この取組における主体的な活動や達成感・成就感が、自己コントロール力や自己肯定感を育むことにつながっていったと思われる。

###### イ 本年度の研究の視点

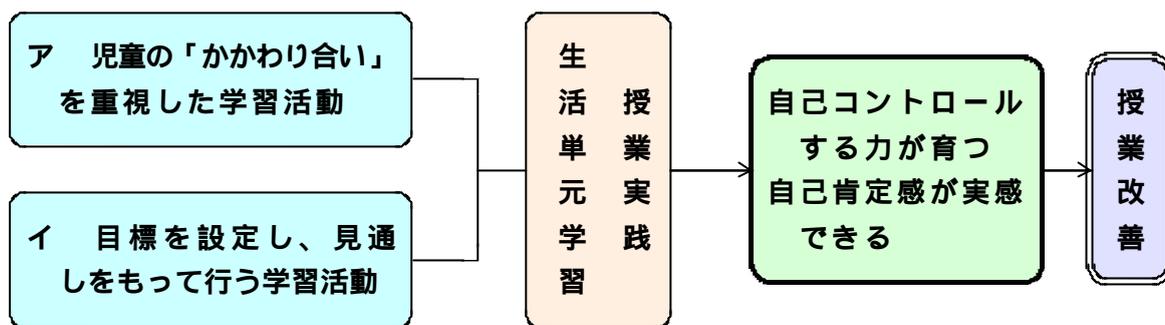
生活単元学習とは、児童生徒が生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事गराを実際的・総合的に学習するものである。

生活単元学習を構想するに当たっては、次のような要件を踏まえる必要がある。

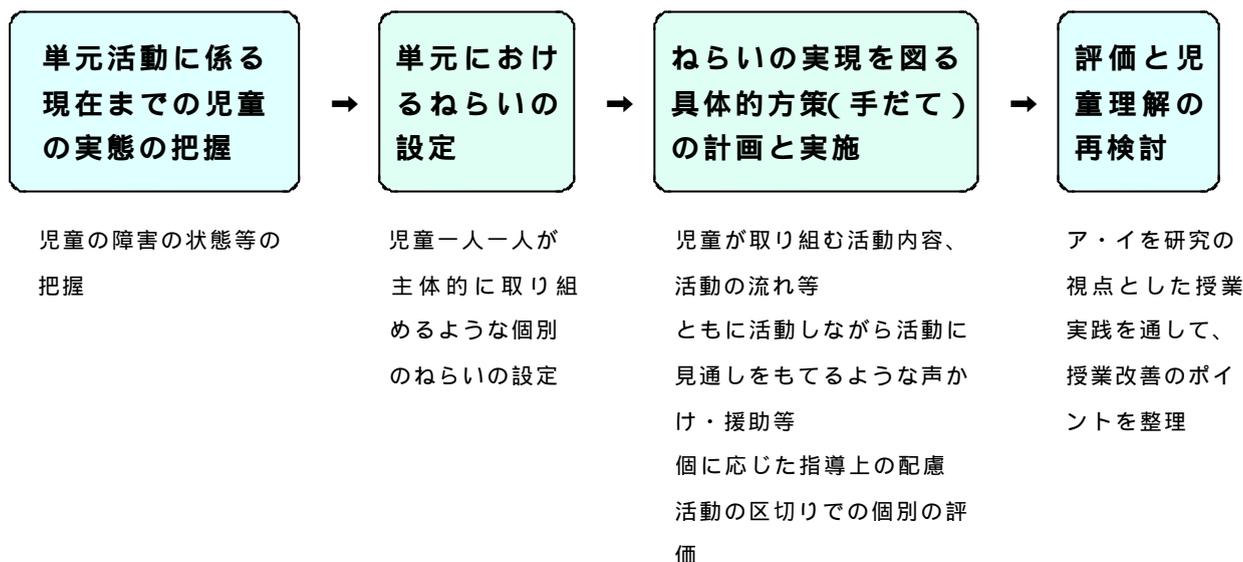
実際の生活から発展し、児童の興味・関心・発達水準に合ったもの  
身に付けた内容が生活に生かされるもの  
見通しをもち、積極的に取り組めるもの  
児童一人一人が力を発揮し取り組めるものであるとともに、集団として共同して取り組めるもの  
十分な活動で組織され、生活としてまとまりのあるもの  
豊かな内容を含み、児童が多種多様な経験ができるもの

本年度は、主として上の ・ に視点を置いた生活単元学習を構想・実施し、「学習に対する主体性・積極性等」や「学習後の達成感・成就感等」が、「自己コントロール力の育ち」や「自己肯定感の実感」につながることにについて、検証を行うこととした。

研究の構想及び結果検証の道筋については、次ページの図に示すとおりである。



### 具体的検証の道筋



## (2) 実践的研究の概要

### 障害児学級における生活単元学習

- 「むしパンやさんを開店しよう」 -

年間テーマ：『おみせやさんごっこ』

#### ア 児童の実態

研究授業を行った障害児学級の児童数は3名である。発達的には3人とも2～3歳程度の遅れ（知的障害）がある。4月当初の児童の実態は、生活経験の乏しさがあり、何事においても自信なさげで、教師の指示や、教師に確認しなければ行動できないという面が見られた。また、言葉は比較的豊富であるが、自分の思いを十分に伝えられないため、お互いのコミュニケーションがうまくとれず、時には泣いたり、かんしゃくを起こしたりといったトラブルが多く見られた。

そうした児童の実態を踏まえ、「豊かな心をはぐくむこと」「生活力を豊かにしていくこと」「楽しいと思えることを多く経験すること」をねらいにした生活単元学習を構想した。

個々の児童の実態及び課題は、次ページに示すとおりである。

	4月当初における児童の実態	自己コントロール力や自己肯定感につながる課題
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常におとなしく自分から「～しよう」などの主体的な言葉は少ない。</li> <li>・「次、どうすんの?」「それでどうするの?」とわかっていることも教師の支えを必要とする自信のなさがある。</li> <li>・保護者によると、家庭では、もっとおしゃべりで自分の意志を主張しているようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうしたらいいか」を自分なりに考えて、判断して行動できる力を伸ばしていくこと。(自己コントロール力)</li> <li>・最年長者として「学級のリーダー」としての活躍の場を設定し、自信や達成感をもたせていくこと。(自己肯定感)</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の観察や心理検査から、認知面の高さに比べて言語理解の弱さと言語表現(自分の思いを伝えること等)の弱さがある。</li> <li>・言葉だけのやりとりでは「えっ、なんていった?」と聞き返したり、「次どうすんの?」「いつ終わるの?」と見通しのわかりにくさに不安感を示す場面がある。</li> <li>・認知面の高さをもちつつも、学習場面や生活場面では、その力を発揮しきれず、友だちとの関わりの未熟さや弱さが見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語指示に添えて、視覚的にわかりやすい教材を提示することで、見通しをもって活動できるようにすること。(自己コントロール力)</li> <li>・友だちとのかかわりがもてるような学習場面や活動を設定し、その中で「頑張つてやろう」とする意欲や「やり遂げた」という自信や達成感をもたせていくこと。(自己肯定感)</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中のコミュニケーション能力は一見高く見えるが、言語理解力において弱さが見られる。</li> <li>・友だちとのかかわりにおいて、言語理解の弱さと経験不足によるトラブルがみられら。</li> <li>・言葉の意味を理解して行動しているのではなく、今までの生活経験とまわりの様子や友だちの動きを見ながら、その場の雰囲気や状況を判断して行動している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちとのかかわりの中で、「今、何をするのか」「どうすればいいのか」を自分で考えて行動できるようにすること。(自己コントロール力)</li> <li>・友だちと「遊びたい」、会話に「参加したい」等、活動に対する意欲を高めていくこと。(自己肯定感)</li> <li>・一つ一つの活動を教師がわかりやすく伝え、活動をやりきることで意欲を自信へとつなげていくこと。(自己肯定感)</li> </ul>

## イ 単元設定の理由

「おみせやさんごっこ」は、3名の児童の発達段階・障害の状態などの実態を踏まえ、

個々の教育的ニーズに合わせた取組が設定できる単元である。また、興味や関心・意欲をもって取り組むことができる活動を含んでいる。

1学期には「おみせやさんごっこ」パートとして、収穫した豆を使った「えんどう豆やさん」「おにぎりやさん」に取り組んだ。児童は「お客さん」とのやりとりを楽しめる「おみせやさんごっこ」に興味・関心をもち、おもしろさを感じ、意欲的に活動することができた。学習の後では、「また、おみせやさんしような」「今度いつするの？」など次の学習を楽しみにしている姿が見られた。

2学期は「おみせやさんごっこ」パートとして、収穫したさつまいもを使って、「むしパンやさんごっこ」に取り組むことにした。この単元は、「さつまいもの収穫」から始まり、「むしパンを作るための買い物学習」「むしパン作り」「おみせやさんの開店の計画・準備」「おみせやさんの開店」など、目標に向けて意欲的に取り組める多様な活動を設定することができるものである。活動の場面で「どうしたらいいのか」「どうしたいのか」を自分たちで考えることを大切にしながら、学習の中で学んできた力を実際の生活の中で「使いこなせる力」へと転換していくことをねらいとしている。

生活単元学習としての「おみせやさんごっこ」では、計画の立案時に教師と児童間の話し合い活動を大切にし、どのような「おみせやさん」をするのかを児童自らが考え、決定させていくようにする。このような話し合い活動で児童が意見を出し、その意見をお互いに認め合い、尊重し、実際の活動の中で生かしていくようにする。そうした中で、児童が自分自身を振り返り、自他の頑張りを認め合い自信をもつことは、児童一人一人が自己肯定感を実感することにつながっていくものと考えた。

また、「おみせやさんごっこ」の取組みの中では、恥ずかしさを感じながらも、お客さん役（主には校内の教職員）と会話し、言葉のやりとりをすることにより、状況に応じた応答の仕方を体得し、児童のコミュニケーション能力を向上させていくことにもつながると考えた。

教師は、そうした点を念頭に置きつつ、児童が生き生きと活動できるように援助していくことが大切である。また、それが児童の主体性・積極性等の向上や達成感・成就感等を実感できることにつながるとともに、障害児学級における生活単元学習の在り方（授業改善の視点を含みつつ）を考える上で、ポイントになるということも踏まえておくことが必要である。

## ウ 研究の手法と研究の概要

生活単元学習として、上記の研究の方向性で示した2つの視点を重視した「おみせやさんごっこ」の学習を設定し、その学習から見られる児童の変容を整理する。

児童の変容を整理することにより、障害のある児童に対する「自己コントロール力」「自己肯定感」につながる授業改善の視点を指し示すことにする。

### (ア) 単元目標

「むしパンやさん」を開店するために話し合いの中でお互いの意見を交流しながら、計画を立て、積極的に準備を進める。

買い物学習で、自分の購入する材料がわかり、買い物をしてお金の支払いをする。レシピを見て手順がわかり、むしパン作りを楽しむ。

「むしパンやさん」を開店し、やりとりを通して「おみせやさんごっこ」をする。

### (イ) 単元指導計画（P.38参照）

#### (ウ) 本時の目標

レシピを手がかりにしながら、むしパンを作る。

「むしパン屋さん」の開店のために、見通しをもって準備を進める。

「むしパン屋さん」を開店し、お客さんとのやりとりを楽しむ。

「むしパン屋さん」の中で、自分の役割（調理係、接客係、レジ係）の自覚を持ち、楽しみながら「おみせやさんごっこ」をする。

#### (I) 本時の展開（P.39参照）

##### エ 児童の変容

この「むしパンやさんを開店しよう」の活動では、1学期の取組を踏まえて、「どんなおみせやさんをしたいのか」を教師の援助のもと、児童に考えさせるところからスタートした。また、本時に至るまでの全ての活動（さつまいもの収穫・おみせを開店するために必要な材料の買い物・開店に向けての看板や案内状作り等）において児童が主体的に取り組めるよう話し合いの時間を大切にしてきた。役割決めも児童の意見や考えを尊重し、また、買い物学習でも児童の意欲の向上を図るために、近くのお店に行って本物のお金を使って買い物をした。本物のお金を使って買い物をするという経験は、児童の実際の生活に結び付くという点で、貴重な経験となった。

そうした事前学習を大切にしてい取り組んできたことは、本番に向けての意欲付けにつながっていった。3名の児童が、自分の役割をしっかりと自覚できていたので、実際に「むしパンやさんを開店する」活動の中では、児童一人一人が積極的・意欲的に取り組むことができていた。教師も児童が活動する姿を見ながら、一人一人の児童の課題（活動におけるねらい）に即しつつ、活動が途切れないように、適宜声かけ等の援助を行った。また、活動の中で児童が失敗しても注意したり、叱ったりするのではなく、どうすればいいのかを助言（声かけ）し、児童に考えさせるようにした。

このように児童の意見や考えを尊重し認めつつ、また、児童の活動を大切にしてい中で、「むしパン屋さん」の取組がうまくでき、そのことで児童自身が自信や達成感・成就感をもつことにつながった。また、お客さんとして先生方からも、児童の様子を見て「普段よりも生き生きとしていた」という感想も聞かれた。

この単元の一連の活動を通して、児童の中に以下のような変化（姿）が見られるようになってきた。

##### 自主的な判断力・自己評価力の向上

学校生活において、次に何をするのかということがわかっていてもなかなか自分から行動することができず、絶えず教師に「～していいの」と聞いてくるなど、指示待ちの姿が多く見られていた（A）。しかし、この活動を進めていく際に「何がしたいのか」「どうしたらいいと思うか」等をたずね、児童の意見を認めていくことで、児童自身も自信をもてるようになってきた（A）。そして、自信をもつことができると次々と自分の考えや思いを積極的に発表することができるようになり、また互いに他者（友だちや教師）の考えを認め合えるようになってきた（A・B）。

##### 学習に対する意欲や主体性の向上

児童の意見を教師も認め、活動の場を設定していくことで、児童一人一人が、自分で考えて行動できるようになるとともに、主体的・積極的に活動していけるようにもなってきた（A・B）。こうした児童の姿を教師が的確に把握し、次の活動への見通しを児童がもてるように「むしパン作り」のレシピや「おみせやさん」の配置図等を準備することで、児童の中に活動に対しての意欲が高まり、主体性・積極性等の向上が見られるようになってきた（B・C）。

### コミュニケーション能力や自主的な行動力の向上

児童の中には、考えや思いはたくさんあるが、うまく言葉で表現できないという面も当初は見られた（C）。教師の方がゆっくり「待って、聞いてあげる」「言ってきたことを受け入れてあげる」という受容の姿勢を見せる中で、児童の中にも「何でも言える」という自信が芽生えてきた（B・C）。そうした中で、今までは教師や友だちが行動する姿を見て自分も行動していた児童が、教師や友だちが言ったことを聞いて理解して積極的に行動しようとする、行動できる姿へと変わってきた（C）。

こうした活動を通しての児童の変化は、自己を表現したり、互いに認め合って活動の全行程を協力してやり遂げる力の向上につながっていった。

学校の授業として取り組んだこの活動は、児童一人一人の能力を向上させ、実際の生活に生かせるようになるとともに、将来の自立に向けて「たくましく生きる力」「生活力を豊かにしていくこと」「豊かな心を育むこと」へとつながっていくものとする。

## (3) 研究のまとめ

### ア 成果と課題

#### (ア) 成果

自己コントロール力について

- ・ 単元の最初に、1学期の取組を振り返り、活動の楽しさや工夫したことなどを再確認した。また 計画立案時に、話し合い活動を大切に、児童に考え決定させた。そのことが期待や見通しにつながり、児童は意欲をもち、主体的・積極的に活動できるようになった。
- ・ 調理器具の場所を視覚的に提示したり、レシピを示したり、個別に声かけするなど、児童が見通しをもって、自ら考え活動できるように工夫した。最後まで、自分の力で作り上げられたことで、児童は喜びや満足感を感じることができた。
- ・ 役割分担の際、児童の希望を大切に。しかし、希望が重なった時には、どうしたらいいのかを自分たちで決めさせた。役割を児童一人一人が責任をもってやりきることができた。

自己肯定感について

- ・ 材料や調理器具を全員分準備し、各自に全行程を経験させた。調理の際、互いに声かけや教え合うなどかわり合う姿が見られ、自分で作り上げたことで満足感を感じることができた。
- ・ レジ係の児童に、計算機の使用を認めた。そのことで、児童は、計算に不安を感じることなく、「お客さん」とのやりとりを楽しみながら、自分の役割をやりきることができ、自信へとつながっていった。

- ・ 自分で考えるようにヒントを出したり、やり方を具体的に提示する中で、児童は自分の意見や考え・思いを出し合い、互いの意見等も認め合って活動できるようになった。
- ・ 自分で考え、自主選択ができる内容を設定することで、児童は援助を受けながらも自分でやりきれたという達成感・成就感を感じることができた。
- ・ 自分の役割や活動が評価される場を設定した。こうした他者からの評価により、児童一人一人の自信や達成感・成就感がより深まりをみせた。

「児童のかかわり合いを重視した学習活動」や「目標を設定し、見通しをもって行う学習活動」を研究の視点として生活単元学習の授業実践を行い、上記のように「自己をコントロールする力が育ち」(主体的・積極的な活動、喜び、満足感、成就感)「自己肯定感を実感する」(自信、満足感、達成感、成就感)児童の姿が見られた。

また、この研究の成果は、障害児学級における授業改善の在り方を検討していく上でも、大切な知見となった。

### (イ) 課題

生活単元学習では、一つの単元目標に向かって、様々な活動内容を設定する中で、児童の意欲的な活動を引き出すものであるが、必ずしもそうでない場合が見られる。

一人一人の児童が生き生きと活動できるようにするには、個別の指導計画を作成し、単元目標を達成するための個別のねらいと具体的な手立てを準備し、指導することが大切である。

今後の課題としては、児童が主体的に学校生活を送るために、学校教育活動全般の中で、個別の指導計画に基づく授業実践を通して、一人一人の児童に「生きる力」を育てていくことである。

すなわち、児童の実態を的確に把握し、個に視点を当てた授業づくりを行っていくことが大切であり、そのことが、結果として「自己コントロール力や自己肯定感」を育てていくことになると思う。

## イ 授業改善への提言

### (ア) 児童のかかわり合いを大切にすること

学級集団の中で、安心して自分が出せる学級、互いのよさを認め合える学級をつくること  
(自己コントロール力)

学級の中で、共感的人間関係を育み、友だちと一緒に活動できる力を付けていくこと  
(自己コントロール力)

友だちとのかかわりがもてるような学習場面や活動を設定すること(自己肯定感)

友だちと「一緒に学習したい」「一緒に遊びたい」、友だちや教師との会話に「参加したい」という気持ちを大切にすること  
(自己肯定感)

### (イ) 児童が見通しをもって活動できること

学習や活動の中で、「どうしたらいいか」を自分なりに考えて、判断して行動で

きる力を伸ばしていくこと (自己コントロール力)  
 言語指示に添えて、視覚的にわかりやすい教材を提示すること (自己コントロール力)  
 自らが工夫して活動できるように、様々な教材を準備すること (自己コントロール力)  
 学習や活動の手順や基礎的な作業を絵カード等を用いて分かりやすく説明し、工夫できるところは主体的・自主的に考えさせること (自己コントロール力)  
 活動を分かりやすく伝え、一つ一つの活動をやりきらせ、次の学習や活動へつなげていくこと (自己肯定感)  
 学習したことを発表する場や機会を設定すること (自己肯定感)

#### (ウ) 授業作りの工夫を進める視点から児童理解を行うこと

児童が、「見通しをもち、主体的に活動できる」ことを想定した授業作りの視点で児童理解を行うこと (自己コントロール力)  
 障害の種類や程度など一般的情報から入るよりは、まず目の前にいる児童の日常生活の様子を通して児童理解を行うこと (自己コントロール力)  
 単元(学習)での活動がかかわり合いをもち、より良く展開できることを目的に、単元(学習)の目標や内容に即して理解を行うこと (自己コントロール力)  
 「指導するため」「力を付けるため」の理解でなく、「児童の主体性や積極性を育むため」の視点から児童理解を行うこと (自己肯定感)  
 児童の興味・関心に基づいた学習を通して、「児童の意欲やコミュニケーション能力の向上を図るため」の児童理解を行うこと (自己肯定感)  
 単元(学習)の取組の中で、児童が達成感や成就感をもつことができたかを踏まえて、次の学習における目標をどのように設定するかを想定して児童理解を行うこと (自己肯定感)  
 児童の実態と個に応じたニーズの把握と記述は、肯定的に行うこと (自己肯定感)  
 (例)「一人では滑り台を滑れない」ではなく、「教師と一緒に滑り台を滑ることができる」というように。

教師は、授業作りの工夫を考えていく上で、こうした視点を重視し、児童自身が授業(学習・取組・活動)を通して、自己コントロールや自己肯定感をはぐくんでいけるように、その援助者となる必要がある。

単元名 「むしパンやさんを開店しよう」 指導計画（全14時間）

時	指導過程と指導内容	主な学習活動	指導上の留意点	評価	自己コントロールをはぐくむ視点 自己肯定感をはぐくむ視点
2	初夏に植えたさつまいもを収穫し、意欲づけをする。	さつまいもを収穫しよう。	・収穫したさつまいもの形のおもしろさや大きさを味わったり、さつまいもを使ってどんなものを作りたいかを考えることで収穫の喜びを感じさせる。	実際にさつまいもを収穫することにより、意欲をもつ。（関）	
5	むしパンやさんの開店について話し合う。 ・計画を立てる。 ・準備をする。 看板・案内状作りなど必要なものを準備する。	むしパンやさんを開店しよう。計画を立てて、準備をしよう。	・1学期の「おみせやさんごっこ」の取り組みを想起し、お店のイメージをもって計画を立てるようにする。 ・「どのような工夫をしたらいいのか」をこれまでの「おみせやさんごっこ」の遊びや買い物の経験をもとにして、考えるように助言する。	「むしパンやさん」を開店するために話し合いの中でお互いの意見を交流しながら、積極的に準備を進める。（創・応）	話し合いの中で自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け容れて調整したりしながら、計画を立て、準備をする。
1	むしパン作りに必要な材料の買い物をする。 ・買い物の分担について話し合う。 ・買い物メモを作り、必要なお金をもって買い物をする。	買い物をしよう。	・必要な材料については伝える。 ・希望が重なったときはどうすればいいのかを考えることを大切にする。 ・個々の実態に合わせてお金を準備する。	買い物学習で、自分の購入する材料がわかり、買い物してお金の支払いをする。（応・コ）	自分の購入する材料がわかり、自分で買い物をする。 必要な物を探し、レジで表示されたお金を自分で支払うことができる。
3	「むしパンやさん」1回目を開店する。 ・各学級それぞれでおみせを開店し、互いに売り手買い手を経験し、やりとりをする。 ・むしパンを作る。	「むしパンやさん」を開店しよう。	・レシピを準備し、作り方や順番をわかりやすく提示する。 ・一人一人が全行程を経験できるように材料や器具は一人分ずつ準備する。 ・やりとりのうまさや工夫できたところなどをまとめの時に評価をし、次回の「おみせやさんごっこ」につなげるようにする。	・レシピを見て手順がわかり、むしパン作りを楽しむ。（創・応） ・むしパンやさんの開店準備をする。（関）	レシピを参考にしながら、自分でむしパン作りの全行程をやりとげることができることで達成感をもつ。
3	「むしパンやさん」2回目を開店する。（本時） ・むしパンを作る。 ・開店の準備をする。 ・おみせを開店する。	「むしパンやさん」を開店しよう。	・2回目なので、できるだけ一人一人がレシピを参考にしながら作ることができるようにする。 ・1回目で見つけた工夫点を伝え、考えて準備ができるようにする。	・むしパンやさんを開店し、やりとりを通して「おみせやさんごっこ」をする。（コ）	自分たちで計画・準備したおみせやさんにたくさんのお客がきてくれたり、その中でやりとりをすることで達成感をもつ。

評価について

(関): 関心・意欲・態度

(応): 応用力

(創): 創造力

(コ): コミュニケーション能力

本時の展開

指導過程	学習活動 指導	指導上の留意点 個に応じた	指導上の留意点 教具等 評価	教材・	
導入	<p>今日何をするかを話し合おう。</p>	<p>一人一人がやることを確認する。                      ・前回の「おみせやさんごっこ」の評価を再度伝え、工夫してきたことを大切に。                      ・前回のむしパンの数では足りないことを伝え、どうしたらいいのかを考えさせる。(量を増やす、2回作るなど)                      ・お茶パックを使うと便利なことを伝える。</p>	<p>A...おみせやさんのやりとりの場面でうまく言っていたことを評価する。                      B...レシビを見ながらうまく作っていたことやお茶を入れていたことを評価するとともに、今回はお茶パックを使うと便利なことを伝える。                      C...さつまいもを工夫して切ったこと、パックを運ぶ時に工夫できたことを評価する。</p>	お茶パック	
展開	<p>蒸しパンを作ろう                      ・クッキングの身じたくをする。(手洗い・エプロン)                      ・レシピを読んで、手順を確認する。                      ・レシピを参考にしながら、一人一人が「何をしたらいいのか」の見通しをもって、むしパンづくりをする。</p> <p>開店の準備をしよう                      ・レジ係・むしパン係・お茶係の3つの仕事の分担をする。                      ・何が必要なのかを考えて準備する。</p> <p>おみせやさんを開店しよう                      ・お客さん(先生たち)をむかえ、それぞれの持ち場でやりとりをする。</p> <p>後かたづけをしよう                      ・食器などを洗って片付ける。                      ・テーブルの上などをふく。</p>	<p>一人一人が全行程を経験できるように、材料や器具は一人分ずつ準備する。                      ・必要な器具については自分で食器だから出せるように「どこに何があるのか」を視覚的に提示しておく。                      ・レシピを見て、「何をしたらいいのか」を自分で考えて活動することを大切に。わからないときは先生に聞いてもいいことを伝える。                      ・選択できる状況を作ったり、自分たちで考えて活動できる設定を大切に。                      ・自分で考えることを大切に。指導者は必要な支援をしながら一人でがんばれたことを評価する。</p> <p>仕事の分担について話し合う。                      ・やりたいという意欲を大切に。希望が重なったときはどうしたらいいのかを考えるように助言する。(じゃんけん決めて・前回と交代する・途中で交代するなど)                      ・指導者は決まった係の仕事を再確認する。                      ・レジの場所・お客さんの席・むしパンとお茶の準備をする場所などについては1回目のおみせやさんごっこ」のあとの話し合いで決めた設定にする。                      ・おつりが渡せるような硬貨を種類ごとに準備しておく。</p> <p>お茶係についてはお湯を使うので扱いに注意するように助言する。                      ・「円です」「ありがとうございました」「いらっしゃいませ」「どうぞ」などのやりとりについては1回目のおみせやさんごっこの中で場面に応じてどういえばいいのかを考え、別の言い方を自分で見つけたことを評価する。</p> <p>何を片付けたらいいのかを伝える。</p>	<p>A...視覚認知の弱さから見るだけではわかりにくいことが予想されるので、そのような場面では言語を添えて助言をする。                      B...何をすることがわかりにくいと不安感をもちがちであるので、何をしたらいいのかの見通しをわかりやすく助言する。                      C...友だちの活動を見ながらしていいことを伝える。戸惑いが見られたときは、指導者がレシビのどこを見たらいいのかを具体的に指し示すことで、何をしたらいいのか助言する。</p> <p>A...自分で考える力はあるが指導者に頼りがちであるので、ヒントを与えて自分で考えることを大切にやりとりをする。                      C...「やりたい」意欲はもっている。「何をどのように準備したらいいのか」については一つ一つ短いことばで伝える。わかりにくいときは具体的に提示したり、やり方を伝える。                      A...レジ係を希望したときには暗算で計算することを基本としつつ、困難な時は計算機を使ってもいいことを伝える。                      B...レジ係を希望したときにはレジスターについてある計算機を使っておつりを計算してもいいことを伝える。                      C...レジ係を希望したときは指導者やAがやりとりの助言をする。</p> <p>A...リーダーとして活躍できる場面や状況を設定し、自信をもって取り組めることを大切に。                      B...たくさんのお客さんの前では物怖じしてしまうことも想定できるので、無理強いはいないように支援する。本児がやりたいと思う活動ができるように支える。何か伝えたいことがあるときは丁寧に聞くことで不安感を与えないよう配慮する。                      C...おみせやさんごっこの雰囲気を楽しむことができるが、場面の理解が困難なときは「どうすればいいのか」を指導者が一緒にしたり、手本を見せるなどの援助をする。</p>	<p>レシビ材料                      ボール・皿                      計量カップ                      アルミカップ                      泡たて器                      おたま</p> <p>レジスター                      おつり用のお金                      お盆・ポット                      きゅうす                      お茶のは                      お湯のみ</p>	<p>自分がわかっている順番でむしパンを作る。&lt;創造力・応用力&gt;</p> <p>やりたい仕事を自分で希望する。&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <p>おみせやさんの役になって、やりとりを楽しむ。&lt;コミュニケーション能力&gt;</p>
まとめ	<p>今日楽しかったことを発表しよう                      ・売り上げを数える。                      ・次のおみせやさんごっこの希望を聞く。</p>	<p>時間があればA・Bの2名がそれぞれお金を数えるようにする。Cも数えることを希望したときは、指導者が支援しながら、「数えたい」という意欲を大切に。                      ・黒板に提示してある大まかな流れを手がかりにしながらおみせやさんごっこを振り返って楽しかったことや頑張ったことを見つける。                      ・児童の発表の後、活動の時に見つけたそれぞれの児童の頑張ったことや上手にできたことを指導者が付け加えて評価する。                      ・お互いがんばった点に目をむけることができるように助言する。</p>	<p>A...前回100円ずつの列を作って数えればわかりやすいことを伝えてあるので、そのやり方でできたときはそのことを評価する。                      C...硬貨の種類の中で10円玉を探し出すことと10円玉がいくつあるのかを数えることをめあてとする。10円玉が10個以上の場合は10ずつの束を作っていく。                      A...友だちのがんばったことも見つけることができると思われるので、その視点での気づきを促す。</p>		<p>楽しかったことを発表する。&lt;コミュニケーション能力&gt;</p>